

【第3分科会】 ③
末棟小百合 先生(神奈川)
「身体表現による鑑賞実践—『なりきり絵画』への取り組み」

【題材について】名画を自分で演じ、写真表現によって再現していく取り組みです。鑑賞活動をメインに、表現活動も取り入れています。原作の解釈を超えて、現代に生きる高校生の解釈をプラスした現代版リメイク作品を目指しています。

Q1 小道具、衣装などの準備、予算、材料費はどうしていますか？誰が準備しますか？照明設備、暗幕などは購入したのですか？スタジオの費用は？学校に無いものの調達はどうしますか？

A 『なりきり絵画』作品制作に必要な小道具・衣装の予算や材料費は、ほぼ生徒が自宅から持ち寄ったものでカバーします。学校にあるすべての備品や道具については、各教科の先生たちにご協力いただいて貸し出しや場所の提供をお願いしています。なお、これらの手配や依頼に関しても、生徒たちの手で礼儀正しく行うようにと指導しています。小道具制作に必要と思われるような紙や塗料、ボンド、布、針金等、本当に基本的な画材は授業内で購入します。その他、見えそうなものを事前に100円ショップで購入しています。

ただ、例年少し驚いているのは、生徒たちが自分のおこづかいやアルバイト代を使ってでも自力で購入してくることもあるという点です。購入するようにとの指示は出していないのですが、グループ作品を作るために6人全員でそれぞれ全身タイツを購入してきたり、パーティーグッズのお店にわざわざ足を運び、特殊メイク用品やカツラ、手芸店で大きな布など自身で用意してくることも多いように思います。今の高校生は「楽しいこと」「面白いこと」にはこちらが思うよりずっと前向きで積極的なのかも知れないなど、学びました。

この準備において、難しさを感じている生徒には、世界的に有名な芸術家達がいかに貧しく苦勞しながら傑作を生み出したかという話をします。お金がない中で何を使う工夫をして、何を代用して新しい作品を生み出すのかというのも才能のひとつであるというような内容です。

なお、この課題は学校内での撮影という条件で行っています。生徒たちは学校内をロケハンし、個々に場所を選んで撮影するためスタジオの費用はかかりません。照明設備はスタンドタイプのを1つだけ購入し、それ以外は生徒たちが懐中電灯や自宅にある電気スタンドを当てたりして、創意工夫しています。暗幕は学校のものを借りて使用します。

この質問を多くの先生方からいただきましたが、想像されているよりも費用はかからないかと思います。上記以外には展示用の3ミリのスチレンボード、写真用印画紙A4、L判を各人数分、印刷用インクを事前に購入しています。

Q2 1課題にどのくらい時数をかけますか？また、その時間配分は？放課後等も利用するのですか？

A 前任校と現在の勤務校どちらでも実践しています。どちらの学校でも授業外の放課後等を利用している生徒がいます。

【前任校の弥栄高校芸術科美術専攻の場合／「鑑賞研究」90分授業】
・制作説明、制作のための作品・作家研究レポート制作

90分×1

・制作準備(出演者、撮影者、プロデューサー、ヘアメイク、小道具制作、ロケハン手配等シート作成)

90分×1

・制作(1人3点制作、および仲間の作品への出演、補助協力など)

90分×3

・「なりきり絵画展」のための校内・校外展示計画と準備、作品プレゼンテーション

90分×2

【現在の白山高校普通科美術コースの場合／「美術概論」50分授業】

・制作説明、制作のための作品・作家研究レポート制作

50分×1

・制作準備(出演者、撮影者、プロデューサー、ヘアメイク、小道具制作、ロケハン等手配シート作成)

50分×1

・制作(1人1点制作、クラス全員作品1点、および仲間の作品への出演、補助協力など)

50分×6

・「なりきり絵画展」のための校内・校外展示計画と準備、作品振り返り

50分×1

Q3 大道具の保管は？場所の確保は？他の授業への配慮はしますか？

A 大道具の保管や場所の確保は、ご質問の通り、毎年の課題のひとつです。なるべくご迷惑をかけないように気を配っています。保管の場所をあらかじめ用意しておき、そこにまとめて置くように指示をしますが、なかなか思うようにならないこともあります。また、ほかの授業への配慮も課題です。最大限に気を遣うようにと指導しますが、この課題はコミュニケーションが多く生まれすぎてしまい、盛り上がることもあるので、気付かないところでほかの授業や先生に迷惑をかけてしまっているかもしれません。教室でできる生徒には空き教室を手配してそちらでやってもらうようにしています。また、多くの先生を巻き込んでご協力いただけるように声掛けをしたり、研究授業にして見学してもらえるようにしています。前任校では例年の名物授業となっていたので、徐々にご協力・ご理解がいただけるようになりました。

Q4 原画は生徒が用意するのですか？教科書に限定？(予備)画像加工も生徒がするのですか？

A 原画は生徒が用意します。必ず図書館に行って、大きな原画の図版を用意するように指導します。携帯の画像では見えない部分もあること、今回の課題は見えていなかった部分の発見を意図していると説明します。原画の条件としては、美術的要素の強いもの、「なりきり絵画展」で美術に興味のない人にも笑顔で楽しんでもらい、美術を世の中に広めようという目的もあるので、そのことをよく考えて、できるだけ教科書級の親しみのある作品を選ぶようにと指導しています。マニアックな作品に関しては要相談としていて、きちんと教員にプレゼンテーションできた場合に許可しています。写真とアニメ作品は不可とします。最近では会田誠氏や松井冬子氏などの作品も人気です。遺跡や建築物、土器、工芸品になりきった生徒もいます。

Q5 グループ分けはどうやるのですか？人数は？

A グループ作品は生徒の自由で組むようにしています。人数は6人以上という条件のみです。作者が中心となって、自身の制作意図に基づき、スカウト合戦が繰り広げられます。

Q6 評価の観点はどのようにしていますか？

A この質問も多くの方から毎回いただきます。以下の点で評価を行っています。この課題はおおむね変身願望のある高校生には人気で、普段美術の授業に乗り気でない生徒も奮起する傾向がみられます。比較的評価は高めになることとがあります。

- ・事前に制作する「なりきり絵画」作品・作家研究レポート
- ・毎時提出の「アピールポイントメモ」での自身の活動評価
- ・制作後のプレゼンテーションと振り返りレポート
- ・作品の提出と作品に添える制作ポイントの文章
- ・制作過程での他者との協力体制のシート
(誰のどんなことをサポートしたか、支え合って工夫したか)
- ・原作作品の解釈をした上で、真似ではなく、「現代を生きる高校生」として自分の作品にリメイクできているか。
- ・「なりきり絵画展」の実施・計画・運営での役割をきちんと果たしたか

Q7 作品からの読み取りの部分は何か反響がありましたか？

A 制作の上の留意点として、生徒に伝えている部分は以下となります。

- ・原作作品に対する自分なりの解釈をもつ。
- ・原作者の心情を考える。
- ・原作作品の中にいる登場人物の心情を感じる。
- ・作品を正確に真似るのではなく、今を生きる高校生として自分の解釈を加えて表現する。

一番、反響があるのは自身が選んだ作品への「愛着」が生まれたという部分です。また、この課題の中で友人たちが制作した作品に対しても「興味・関心」がわいたという声が多いです。もちろん、原作を見て、興味・関心が育つことも大切なのですが、リメイク作品がきっかけで原作への興味が生まれるという逆の発想が育って、結果的に1クラス分の作品への知識や関心が育つということも大事かと思います。また、ただ眺めるだけでは分からなかったが、演じてみることで作者が誇張したかった部分や、気持ちの部分、細かい演出を知ることができたという反響もありました。生徒たちが将来、何か目の前にあるモノを見つめる時、「なりきり絵画」的な視点を持ってみてもらえることを心から願っています。

Q8 森村泰昌との関連は学習するのですか？

A この課題に対して、多くのご質問をいただくのがこの項目です。導入に際しては、あえて、触れないように気をつけています。完成された先入観を最初から与えてしまわないかと心配しています。生徒には、アーティストの中にはこういった分野で活躍している人がいるという情報だけを授業で話します。そうすると、制作の過程で「こういう人を見つけました！」と話してくれる生徒が毎年必ずいます。自分で調べて発見した、という喜びの部分を残しておきたいという想いです。制作後の授業では紹介しています。

Q9 ルーブリック、ポートフォリオの活用可能性についてどうお考えですか？

A 活用の可能性は十分にある課題かと思っています。とはいっても、まだまだ勉強不足で、活用して評価しているという段階ではありません。教育分野の個人評価システムには大変興味を持っております。

Q10 「写真集」は入手可能ですか？

A 学校にご連絡ください。

【発表を終えて】

この度は、たくさんの方々に発表を聞いていただき、ていねいで励みになる感想やご質問をいただき心から感謝いたします。前任校から現在の勤務校に至るまで毎年「なりきり絵画」の題材を実践して参りましたが、生徒たちの創造力とコミュニケーション力の伸びしろを毎回感じる事ができ、私自身が驚きの連続です。

学校の鑑賞教育では「見たり、感じたり、ひらめいたり」する力の育成を重視し、今回の題材のような「真似をしたり、演じたり、殻を破ったり、批評し合ったり」する練習場所を増やしていく必要性を感じます。SNSなど短い文字の羅列だけでコミュニケーションを完結してしまう現代の高校生たちに不安を覚えるのです。生徒たちが成長し、社会の中で生きる力を育むために非常に大切な部分を育てていかなければなりません。これらは他でもない美術・工芸の鑑賞教育が中心となって、養える力だと信じています。

参考資料に多くの方からリクエストのあった「なりきり絵画」参考作品と、「くまモン頑張れ絵」イラストレーションの「YouTube」URLを掲載させていただきました。ご覧下さい。何かご質問があれば、学校までご連絡ください。この度はありがとうございました。